

すくわくプログラム報告書

施設名	田中ナースリー大和保育園
クラス	1歳児
日付	2025. 11

1 活動のテーマ

<テーマ>

自然（カタツムリ）

2 <テーマの設定理由>

自然豊かな園庭と、園周辺の自然環境から発見された生き物との出会い。子どもたちの身近なクラス内で飼うことにより、日々の変化を感じ、発見を言葉や身振り手振りの表現活動へ興味関心を広げるため設定した。

3 環境の設定

<活動のために準備した素材や道具>

飼育ケース（小さな通気口のあるもの） 砂、水、木や葉っぱ
野菜くず（給食室でもらう）

カタツムリの絵本や、歌、手あそびを楽しむ。

4 探索活動の実践内容

毎日、保育室で飼っているカタツムリの観察から、カタツムリの歌、手あそびを楽しむ姿がある。

子どもたち：「でんでん！」

靴脱ぎの玄関で待つ間や、保育室内で「かたつむりの手あそび」を楽しんでいる。

手をグーとチョキをして、手あそびの『かたつむり』の形ができると、保育者に見せたり、歌を歌って欲しい時に、そのポーズをしてみせて、保育者に合図をおくる姿が見られる。

小さかったカタツムリが、野菜くずをあげて、少しずつ大きくなってきた。

アクリル板や飼育ケースの壁面に貼りついているカタツムリから、黒いひものようなものを発見

子どもたち：「これなーに？」

保育者：いっぱい食べたからウンチしたのかな？

子どもたち：「ウンチ？」「くさーい」

透明なアクリル板を登っているカタツムリをみて、

「くっついてる！」「おちないねー」と不思議そうにその様子を見ていた。

スイカの皮を入れると、首を思いっきり伸ばして、スイカを食べるカタツムリにびっくり。

秋が近づいてきたので、カタツムリを外に逃がしてあげることにした。

元いた玄関前のゴールドクレストの根本、葉っぱの上のにのせ、「バイバイ！げんきでねー」とおわかれをする。

カタツムリの出会いは、その後も子どもたちには親しみのある生き物になり、お部屋の中でも「カタツムリってどんなふうにあつていた？」と声をかけると、子どもたちが床に寝そべり、もぞもぞとゆっくり動いて遊ぶことを楽しんだ。

その遊びを、冬のおたのしみ会の劇あそびで発表すると、

子どもたちはカタツムリの衣装を身につけて、カタツムリになりきって楽しんでいた。



5 振り返り

カタツムリの出会いから、いろいろな発見を楽しむことができた。食べてウンチをすること、カタツムリの動きや、壁を登って落ちないことなど、動きもゆっくりだけど、たくましいカタツムリから、子どもたちも色々感じているようだった。

カタツムリになって動きをマネする遊びから、劇あそびへ繋がられたのも、継続して「カタツムリ」のテーマで自然に触れることができたからだを考える。

子どもたちの反応を丁寧に見守り、保育活動に繋がられた。また、生き物からは様々な学びが得られる体験がたくさんあることを、保育者間でも共有できた。